

第201回 産学交流サロン「ひびきのサロン」
(第62回 北九州医工学会)

医・歯・工のさらなる連携を目指して



2022.

11/19 sat

14:00 ~ 16:40

参加無料

会場

北九州学術研究都市
産学連携センター 2F 研修室

定員

会場：40名

オンライン同時開催
(Zoom 使用)

※会場入室にあたり、マスク着用、入口での検温・消毒が
必須となります。予めご了承ください。

北九州医工学会は1990年に北九州市が中心となり、学術、産業及び行政の各分野における専門家の研究及び交流を通じ、専門家の知識と産業界の高度な先端技術力を結集し、新たな学術環境の創造を図るとともに、地域に新しい産業・技術を創出することにより、地域経済の発展に寄与することを目的に設立しました。

当会議はコロナ禍における行動制限や学術活動の制限もある中、昨年度はオンラインによる再開を果たし、県内のみならず、県外からも多数ご出席いただきました。

今年度はオンラインと対面のハイブリッド型で開催します。若い研究者を中心に、7名が講演いたします。アフターコロナ時代の医・歯・工のさらなる連携を目指して活発なご議論を期待しておりますので、皆様のご出席を心よりお待ちしております。

主催

北九州医工学会

共催

(公財)北九州産業学術推進機構
[FAIS]

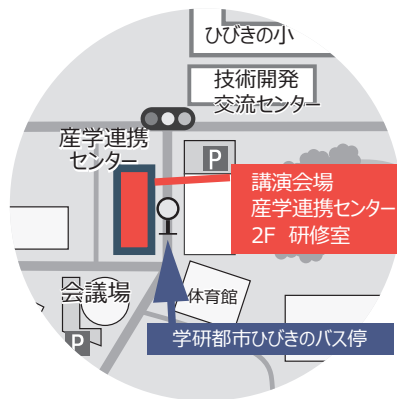
Access

[車の場合]
北九州市高速道路黒崎出入口
(黒崎・折尾出口下車折尾方面へ)

学術研究都市
※北九州市高速道路黒崎出入口から
所要時間20分

[公共交通機関の場合]
鹿児島本線「折尾駅」下車

北九州市営バス または 西鉄バス
折尾駅 → 学研都市ひびきの
※所要時間約15分



(公財)北九州産業学術推進機構 イノベーションセンター

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2番1号

TEL: (093)695-3006 FAX: (093)695-3018

URL: <https://www.ksrp.or.jp/fais/iac/> E-mail: iac@ksrp.or.jp

お申込み
お問合せ



イノベーションセンターHP
第201回 産学交流サロン
参加申し込みフォーム
にてお申込下さい。

第 201 回 産学交流サロン「ひびきのサロン」 医・歯・工のさらなる連携を目指して

2022 年 11 月 19 日 (土)
14:00 ~ 16:40

14:00-14:05 開会挨拶
北九州医工学会 会長 神谷 亨

[一般講演 1] 司会 九州工業大学 前田 憲成
14:05-14:25

「歯科用ガラスセラミックスに対するフッ化水素アンモニウムのエッチング効果と接着への影響」

九州歯科大学 顎口腔機能矯正学分野・生体材料学分野
西澤 悠作

セラミックス製のクラウン（被せ物）を歯質に接着する際、フッ化水素酸（フッ酸）が用いられますが、フッ酸は毒性が強く危険です。本研究では、フッ酸の代替エッチング液として、フッ化水素アンモニウムを用いて接着に及ぼす影響を検証しました。

14:25-14:45

「環状フェロセン化ナフタレンジイミドを用いた SARS-CoV-2 の四本鎖 RNA の電気化学的検出」

九州工業大学 大学院工学研究院
竹中 繁織

4 本鎖核酸はウイルスに存在しており、感染に重要な働きを担っています。この部位を特異的に結合し安定化することができれば、薬や診断薬への展開が期待されます。最近、これを目標として 4 本鎖核酸に関して研究しています。

14:45-15:05

「歯周病原菌はなぜ口腔内で生存できるのか」

九州工業大学 大学院生命体工学研究科
森岡 勇磨

歯周病原菌は、偏性嫌気性菌に分類されています。しかし、歯周病原菌が存在する口腔内には呼吸により酸素が混入してきます。そのような環境下で歯周病原菌が生存するメカニズムは十分に解明されていません。本論では、酸素ストレス下での歯周病原菌の動態について紹介します。

15:05-15:20 休憩



オンライン視聴の際はご注意ください

※受講者の方のお手元の PC などの設定や通信環境が受信の状況に大きく影響いたしますので、ご自分の環境がオンライン配信に適した環境か、お申込み前の確認をお勧めいたします。

※インターネット経由でのライブ配信ですので、回線状態などにより画像や音声が乱れる場合があります。状況によっては、講演を中断し、または再接続して再開する場合がありますが、予めご了承ください。



[一般講演 2] 司会 九州工業大学 竹中 繁織
15:20-15:40

「杖型計測装置による活動量推定手法の改善」

九州工業大学 大学院生命体工学研究科
吉田 貴徳

身体活動の状況を表す指標として活動量があり、厚生労働省により高齢者が健康に過ごすために必要な活動量が定められています。本論では、センサを取り付けた杖型計測装置で活動量の推定を行う手法の提案を行います。

15:40-16:00

「MRI による嚥下検査法の確立」

九州歯科大学 歯科放射線学分野
西村 瞬

我々は MRI による嚥下検査の研究を行なっています。その手法は徐々に確立され、現在では実際に臨床の場で使用されています。我々が開発した手法を中心に、嚥下検査法の変遷や、利点と欠点を交え、これからの検査の展望について考察したいと思います。

16:00-16:20

「距離学習とアンサンブル学習を併用した 歯根吸収の判別法」

九州工業大学 大学院工学研究院
田村 晃聖

歯根吸収は、早期発見早期治療が必要とされている病理学的症状をいいます。しかし、判別には歯科用 CT 撮影装置を必要としますが、所有率は低いものとなっており、パノラマエックス線画像からの判別が必要です。本論では、深層学習による歯根吸収の有無を識別する診断支援法を提案します。

16:20-16:40

「脳卒中リハビリ支援ロボット装具を用いた 到達把持運動解析」

九州工業大学 大学院工学研究院
坂井 伸朗

肩甲骨-体幹系脳卒中リハビリ支援ロボット装具を解析ツールとして使用し、脳卒中患者と高齢健常者の到達把持運動について測定、解析を行い、測定から得られたデータから、脳卒中患者の回復過程および高齢健常者との違いを調べ、リハビリの効果を定量的に示すことを目的に実験を行いました。